

令和 5 年 6 月 13 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01237

研究課題名（和文）『文選』の規範化に関する基礎的研究

研究課題名（英文）Fundamental research on the Normativity of "Wen Xuen"

研究代表者

佐藤 大志（Sato, Takeshi）

広島大学・人間社会科学研究科（教）・教授

研究者番号：90309625

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 10,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は『文選』所収の全詩歌の語彙を抽出し、その李善注と各種データベースを活用して、その言語表現の由来（出典）を整理/統合し、個々の詩語の由来（出典）を簡便に調べることが可能な辞典作成のための基礎データを作成した。またこの基礎データをもとに中国の詩人の言語創作の過程を探り、規範となる文学言語の形成と展開を幾つかの具体的な事例を通して明らかにし、また基準としての『文選』とその李善注の活用の可能性を示した。さらに規範としての『文選』と作者/読者との距離という観点から唐代から清代に至る中国古典の受容についてその一端を明らかとした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の独自性は、まず『文選』とその注釈を活用して、中国の詩人の言語創作の過程と文学言語の由来を明らかにしたことにある。その研究成果は『文選』所収の文学言語を用いる中国や日本の文学作品の読解や解釈に有益な資源を提供することも可能である。また今後はこの基礎データをもとにした辞書を作成することを企図しており、この辞書が完成すれば、中国文学の規範となる文学言語が創り出され、形成されていく過程を、誰でも簡便に獲得でき、中国のみならず、広く漢字文化圏に於ける言語・文学研究に利用可能な資源を提供することが可能となる。

研究成果の概要（英文）：This research extracted the vocabulary of all the poems in the "Wen Xuen" and, utilising the Annotations by Li Shan and various databases, organised and integrated the origins (sources) of their linguistic expressions, and created basic data for the creation of a dictionary that enables the origin (source) of individual poetic terms to be easily investigated. Based on this basic data, the process of language creation by Chinese poets was investigated, and the formation and development of normative literary language was clarified through several concrete examples, and the possibility of utilising the "Wen Xuen" and its Annotations by Li Shan as standards was demonstrated. Furthermore, the study clarified some aspects of the reception of Chinese classics from the Tang to Qing dynasties from the perspective of the distance between the "Wen Xuen" as a norm and the author/reader.

研究分野：中国古典文学

キーワード：文選と李善注 規範と表現 詩語の形成と展開 中国古典の受容と展開

1. 研究開始当初の背景

本研究は規範となる中国の古典として、中国知識人の言語創作に影響を与え続けた『文選』をとりあげ、その規範の創造と形成を明らかにした上で、中国の知識人がその規範をどのように継承し、改変してきたのか、またはそれに反発し、批評してきたのかということを読み取ることで、中世から近代に至る中国文学の諸相を明らかにすることを試みようとした。

2. 研究の目的

(1) 『文選』に於ける文学言語の形成とその過程—文学研究の資源としての『文選』の研究

本研究の基盤となる目的であり、『文選』の李善注に基づき、更に李善注が指摘しない典拠も新たに追加して、『文選』に用いられた一つ一つの言語表現の由来を明らかにする。そして中国文学の規範となる文学言語が創り出され、形成されていく過程を明らかにするとともに、中国のみならず、広く漢字文化圏に於ける言語・文学研究に利用可能な資源を開発することを目指す。

(2) 『文選』を活用した中国古典文学の再解釈—『文選』を活用した中国古典文学の研究

(1)の基礎研究を踏まえ、『文選』の作品世界やその表現を、唐宋以降、近代に至るまでの知識人たちがどのように継承し、また改変していったのかを明らかにする。杜甫をはじめとする唐宋以後の詩人たちが、『文選』と李善注をどのように活用しつつ、ことばをつくりあげていったのか、その実態を明らかにすることを目指す。

(3) 中世から近代に至る古典としての『文選』—『文選』を視座とした古典受容の研究

これは規範/古典としての『文選』の受容と展開を批判的に考察することで、中国に於ける古典受容の様相を明らかにすることを目指す。中国の古典としての『文選』が中世から近代に至るまで、どのような時代に、どのような地域や領域に於いて、どのように受容されていったのかを調査し、中国に於ける中国古典受容の様相を明らかにする。

3. 研究の方法

目的(1)「『文選』に於ける文学言語の形成とその過程」については、『文選』の李善注を用いつつ、更に中国古典籍のデータベースを用いて、新たに用例や典拠を補足し、『文選』に用いられた一つ一つの言語表現の由来を明らかにする。李善は『文選』の約四万箇所に、二千種の文献を典拠として引用しているが、それらはいずれも唐代の文献からの引用であり、現在は散佚した文献や詩文も多く引用されている。本研究では、この李善注を用いつつ、李善注以後の注釈も参考とし、更に中国古典籍のデータベースを用いて、新たに用例や典拠を補足し、『文選』に用いられた一つ一つの言語表現の由来を明らかにする。

目的(2)は、目的(1)の結果を踏まえつつ、具体的な詩語または作品に着目しつつ、『文選』及びその李善注やその分析によって得られた観点によって、唐代以降の詩文をどのように解釈することが可能なのか、その可能性について分析考察し、その実態の解明を試みる。

目的(3)は、規範/古典としての『文選』の受容と展開について、宋代の詩話や小説の記述、明代の『文選』評点本、また清代の集選詩などを対象として、『文選』がどの時代に於いても、規範/古典であったのかということを批判的に問い直し、またそれは誰にとって、どのような意味で規範/古典であり得たのかということを明らかにし、規範/古典としての『文選』の価値を自明のものとするのではなく、規範/古典としての『文選』の価値を、時代や領域の問題に即して批判的に問い直すこととし、中国に於ける古典受容の様相を明らかにする。

4. 研究成果

目的(1)「『文選』に於ける文学言語の形成とその過程」については、『文選』所載の詩(巻19~巻31)までの全語彙を抽出し、李善注を活用して、その言語表現の由来(出典)を整理/統合し、さらに李善注及び諸注が挙げていない典拠の調査と追加作業をほぼ終えることができた。その結果、『文選』所載の詩語の由来(出典)を簡便に調べることが可能な辞典作成の基礎データを構築することができた。この基礎データをもとに数年後を目処に『文選李善注辞典(仮称)』の作成を予定している。

またこの基礎データ作成に関連して、『文選』に於ける文学言語の形成とその過程について、以下のような成果を得た。まず『文選』所収の謝靈運の詩語は陸機の詩句を典拠としながら、陸機とは異なる意味で用いており、そこに陸機に対する謝靈運の対抗意識を読みとることができることを明らかにした。また謝靈運の「賞心」「賞」は、彼以降、永明の西邸文壇において表現の拡大(多様な熟語の形成)と意味の変容(宗教的な山水体験から宴遊における賞翫へ)が生じ、それにともなって「賞心」の語ももとの「知音」の意味とは異なる「賞翫する心」を表す例が現れること、更に変容後の作品が、謝靈運の作品とともに『文選』に収められ、施注の際に相互の詩が参照されたことによって、後世の解釈に分岐が生じたのではないかということ指摘し得た。

目的(2)「『文選』を活用した中国古典文学再解釈」については、まず杜甫詩と『文選』との関係を軸とした研究成果として、王粲から杜甫に至る「登楼」「望郷」の系譜について、『文選』に於ける王粲受容を李善注を活用して明らかにし、王粲に始まる「登楼」「望郷」の系譜が杜甫において如何に継承され、また継承されなかったのかということが明らかにし、杜甫晩年の詩に於ける『文選』受容の問題の一端を明らかとした。また『文選』李善注の活用の一例として、「浮雲」という語を例として、『文選』とその李善注から抽出される「浮雲」の意味や用法を基準として、詩語の形成と展開または個々の詩人の詩語創作の過程について考察することが可能であることを指摘した。さらに、「賞心」と「賞」をめぐる継続研究として、謝靈運以降の用例を考察し、謝靈運の造語「賞心」は、斉から梁にかけて、受容の過程で「真の理解者」から「めでる心」の意味へと変容すること、その背景に「賞」一字の用法の変化(宗教的な山水体験から、娯楽性・社交性を帯びた賞翫の意味へ)が関係することを述べた。『文選』中の「賞心」の解釈が今なお定まらないのは、もとの謝靈運の作品と受容後の作品が混在し、受容の様相も一樣ではないこと、意味の変容が生じたうえで唐代に継承されたことに拠ると考えられることを明らかとした。

研究目的(3)「古典としての『文選』の受容」については、『太平広記』における『文選』の読まれ方を通して唐代の『文選』受容の一端を明らかにし、また凌濛初編『合評選詩』の評点に関する分析や『三国志演義』における三国期の詩文の受容、また『聊齋志異』を例とした清代の注釈のあり方など、明清における『文選』受容の諸相を明らかにした。また清

代乾隆年間から、詩が科挙に復活し、『文選』の詩も新たに学ばれるようになるまで、詩が科挙にとっての邪道と言われていた時代に、『文選』の詩がどのように取り入れられたかを、「集選詩」を素材として検討を加え、清代における『文選』受容の一端について明らかとした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計23件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 佐藤大志	4. 巻 76
2. 論文標題 『文選』と浮雲 『文選』李善注の活用の一例として	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中国中世文学研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中木愛	4. 巻 76
2. 論文標題 謝靈運の「賞心」の受容と変容 『文選』所収の作品を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中国中世文学研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川島優子	4. 巻 76
2. 論文標題 凌濛初編『合評選詩』考（二）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中国中世文学研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川島優子	4. 巻 40
2. 論文標題 明代文選関連書籍考	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国学研究論集	6. 最初と最後の頁 14-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 屋敷信晴	4. 巻 40
2. 論文標題 唐代『文選』受容の一側面 『文選』と唐代小説の創作をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国学研究論集	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 屋敷信晴	4. 巻 76
2. 論文標題 夏目漱石「古別離」と『文選』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中国中世文学研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市瀬信子	4. 巻 76
2. 論文標題 清代「集選詩」に見る文選の受容	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中国中世文学研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐伯雅宣	4. 巻 76
2. 論文標題 六朝詩における異民族の描かれ方 「蛮夷戎狄」および「虜」を中心	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中国中世文学研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 富永一登	4. 巻 4
2. 論文標題 陸機と謝靈運の詩語	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 安田文芸論叢	6. 最初と最後の頁 165-190
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 富永一登	4. 巻 4
2. 論文標題 「陸機の詩語」余話	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 安田文芸論叢	6. 最初と最後の頁 300-300
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武井満幹	4. 巻 20
2. 論文標題 『三国志演義』中の三国時代の詩文について(一) 曹操「短歌行」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会システム研究	6. 最初と最後の頁 59-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川島優子	4. 巻 74
2. 論文標題 凌濛初編『合評選詩』考(一)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国中世文学研究	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川島優子	4. 巻 16
2. 論文標題 『金瓶梅』第一奇書本の評点に関するいくつかの問題について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 表現技術研究	6. 最初と最後の頁 109-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 陳ちゅう	4. 巻 38
2. 論文標題 日本儒林叢書所見『文選』資料彙考稿	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中国学研究論集	6. 最初と最後の頁 57 - 67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陳ちゅう	4. 巻 44
2. 論文標題 本奈良平安時期『文選』鈔讀史料彙編稿	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国学研究	6. 最初と最後の頁 87-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太平広記読書会	4. 巻 52
2. 論文標題 『太平広記』訳注 卷四百二十二「龍」五下	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国語国文学研究	6. 最初と最後の頁 9-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤大志	4. 巻 13
2. 論文標題 「国破」の記憶 杜甫「春望」の「国破」をめぐる	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 84-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 富永一登	4. 巻 50
2. 論文標題 『文選』に見られる「賞心」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国語国文論集	6. 最初と最後の頁 45-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中木愛	4. 巻 73
2. 論文標題 謝靈運の「賞心」と「賞」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中国中世文学研究	6. 最初と最後の頁 23-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐伯雅宣	4. 巻 73
2. 論文標題 六朝詩賦に見る「ふね」(上) 先秦から東晋まで	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中国中世文学研究	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川島優子	4. 巻 73
2. 論文標題 明代金瓶梅資料訳注稿(その三)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中国中世文学研究	6. 最初と最後の頁 106-115
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川島優子	4. 巻 15
2. 論文標題 The Edo Period's Jin Ping Mei	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 表現技術研究	6. 最初と最後の頁 27-37
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 陳羽中	4. 巻 3
2. 論文標題 日本文選學論著索引(中)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 古代文学前沿與評論	6. 最初と最後の頁 243-282
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計5件(うち招待講演 1件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 富永一登
2. 発表標題 『文選』と書呌(竹冠に鹿)
3. 学会等名 私立大学図書館協会西地区部会 中国・四国地区研究会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高西成介
2. 発表標題 元号と『文選』－日本に於ける『文選』受容と関連して
3. 学会等名 シンポジウム「新元号令和の典拠を考える－『万葉集』の散文学－」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤大志
2. 発表標題 『文選』と浮雲 『文選』李善注の活用の一例として
3. 学会等名 中国中世文学会2022（令和4）年度研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中木愛
2. 発表標題 謝靈運の「賞心」の受容 『文選』所収作品を中心に
3. 学会等名 中国中世文学会2022（令和4）年度研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐伯雅章
2. 発表標題 六朝における詩語としての異民族
3. 学会等名 中国中世文学会2022（令和4）年度研究大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 東原伸明・ローレン・ウォーラー・ヨース・ジョエル・高西成介	4. 発行年 2021年
2. 出版社 武蔵野書院	5. 総ページ数 354
3. 書名 万葉集の散文学 新元号「令和」の間テキスト性	

1. 著者名 川合康三、富永一登、釜谷武志、和田英信、浅見洋二、緑川英樹	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 470
3. 書名 『文選』詩篇（六）	

1. 著者名 荻野蔵平、トピマス・パウアー、屋敷信晴ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 九州大学出版会	5. 総ページ数 246
3. 書名 生と死をめぐるディスクール	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中木 愛 (Nakaki Ai) (10619216)	龍谷大学・文学部・准教授 (34316)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	畑村 学 (Hatamura Manabu) (30300619)	宇部工業高等専門学校・一般科・教授 (55501)	
研究分担者	川島 優子 (Kawashima Yuko) (30440879)	広島大学・人間社会科学研究科(文)・教授 (15401)	
研究分担者	屋敷 信晴 (Yashiki Nobuharu) (40404321)	熊本大学・大学院人文社会科学研究部(文)・准教授 (17401)	
研究分担者	市瀬 信子 (Ichinose Nobuko) (50176294)	福山平成大学・経営学部・教授 (35411)	
研究分担者	高西 成介 (Takanishi Seisuke) (50316147)	高知県立大学・文化学部・教授 (26401)	
研究分担者	陳 羽中 (Chin Chu) (50457412)	広島大学・人間社会科学研究科(文)・准教授 (15401)	
研究分担者	佐伯 雅宣 (Saeki Masanobu) (50461364)	四国大学・文学部・教授 (36101)	
研究分担者	富永 一登 (Tominaga Kazuto) (70132636)	安田女子大学・文学部・教授 (35408)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	武井 満幹 (Takei Kazuhiro) (90364124)	北九州市立大学・外国語学部・教授 (27101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関